

潮騒通信「どっこい生きてます！」

自立を目指す潮騒スタイルについて

今年も残りわずかとなりましたが、潮騒JTCはファイザープロジェクトに明け暮れた1年でした。これといって実績のない潮騒が荣誉ある「ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の新規助成に選ばれたことは、まさに奇跡的な恩恵です。必ずしも計画通りにはいきませんでした、ファイザー助成金を活用することで私たち依存症者が社会復帰に向けての課題解決に、1歩踏み出すことができました。嬉しいことに、この1年間の取り組みが評価され、来年も継続して支援が受けられることになりました＝2面に記事。

私は不遇な家庭環境で育ったことから、幼少期から「食う」ことに執着し、世間に反発して裏街道に身を置いても「働く」ことにこだわりました。長く塀の中に隔離されていた時でさえ、手に職を付ける情熱は他の受刑者よりも強かったと思います。同じ依存症ながらも、飽食の時代に生を受けた仲間たちとは異なる時代体験があり、それが核となって人一倍強い就労への意欲につながっています。そんな体験から、きちんとした就労環境が整えば依存症者でも地域で働き、普通の暮らしができることを、潮騒JTCが取り組む就労支援活動を通して実証したいのです。

しかし、そうした私の熱い思いとは裏腹に、依存症者を取り巻く現実には社会復帰への希望がどんどん遠のき、ひどく世知辛くなっています。「今の時代、自分のことだけで精一杯。他人のことまで思いやる余裕はない」「ヤク中、アル中になったのは自業自得。国に助けを求めるなんておかしい」「真面目に働いた者がバカをみるような生活保護制度は、早く見直すべきだ！」一理屈抜きに私たちに対する悪感情が先に立ち、反論を許されない空気を感じます。社会が目詰まりになり、先が見えにくくなると、不満やストレスのはけ口がどうしても「目障りな存在」に向かい、感情を刺激する威勢のいい言動に引き寄せられがちです。すると優しさよりも敵がい心に満ちた雰囲気社会に蔓延し、自業自得論や自己責任論が幅を利かせます。これが当たり前になると社会保障や福祉制度の根幹が崩れてしまいます。私たち依存症者は弱い存在です。こうした動きに抗う手立てや反論の場を持ちません。

翻って全国ダルクの中でも有力な支援組織のない潮騒JTCですが、“献金頼り”の体質には否定的です。独立時の経緯などから、私たちは献金に頼りたくても頼れないハンディを抱えて悪戦の荒野に船出しました。自分たちで「食う」術を身につけるしかなかったため、早くから仕事プログラムに取り組み、試行錯誤しながら自立の方途を模索してきました。このニュースレターに「押しつけがましい」であろう献金振り込み用紙の同封を避けてきたのは、私たちなりの矜持（きょうじ＝プライド）です。生意気かもしれませんが、献金に頼る前に可能な限り自助努力でなんとか道を切り開きたい—それが潮騒スタイルの真骨頂です。（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

12月号 一部100円

Contents

- P1 潮騒スタイルについて
- P2 ファイザー贈呈式参加
- P3 ファイザーP写真回顧
- P4 ケンボウさん参加感想
- P5 大根収穫たくあん作り
- P6 鹿嶋まつり&て～ら祭
- P7 近藤氏インタビュー8
- P8 全国受刑者からの便り
- P9 続・受刑者からの便り
- P10 入寮者しおさい俳壇1
- P11 しおさい俳壇2特選句
- P12 行事予定&献金献品



ファイザー継続助成決定書を手にする栗原施設長＝2面に記事

ファイザーの継続支援が決定、贈呈式に参加

★ヒトシさんがプレゼンの4分間スピーチ★

依存症者向けの就労支援プログラムの独自開発を目的とした「潮騒ファイザープロジェクト」が引き続き、2012年度の「ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民件研究支援」の継続助成対象として選ばれました。12月14日には選定を受けた団体の関係者ら約70人が参加して、都内の新宿駅近くにあるファイザー本社で贈呈式とプレゼンテーション&懇親交流会がありました。潮騒JTCからも栗原豊施設長らが参加して梅田一郎社長から直接、助成決定書を受け取りました。また、プロジェクト事務局メンバーのヒトシさんがプレゼンテーションの4分間スピーチに立ち、潮騒の簡単な説明と今年の取り組みについて紹介した上で、来年度はさらにボリュームアップした事業に取り組む決意を披露しました。懇親交流会では先進的に農業セラピーに取り組む各地の団体関係者らと名刺を交換し合い、同じく継続支援の栄誉を得た三重ダルクの仲間たちと有意義な交流ができました。

今回の選定では、ファイザー社も景気低迷の影響を受ける中で助成規模が前年度より縮小され、2012年度は新規助成8件、継続助成8件(うち3年目は2件)が選定されました。特に新規には228件の応募件数があり、実に29倍の超難関となりました。継続支援は19件の応募で倍率こそ高くなかったようですが、甲乙つけがたかったようです。潮騒はこの1年の活動を通じて、「生活保護受給者から納税者へ」の高い志をスローガンに掲げ、農業プロジェクトに特化して地域の支援者を見方に付けたことが評価されました。栗原施設長は「ファイザー社による2年連続の支援に感謝したい。プレッシャーを感じるが、よりよい内容のプロジェクトにしていき、こうした種まきが豊かな実りにつながるようにしたい。アディクトの社会復帰に向けた就労支援活動は緒に就いたばかりだが、施設を挙げて頑張る」と決意を新たにしていました。

(K)



写真上＝さすがに緊張した表情の栗原施設長、梅田社長(右)から助成決定書を授与されました＝都内のファイザー製薬本社で
写真下＝三重ダルクの市川岳仁代表(右から2人目)らと懇談

【選考委員会推薦理由】薬物やアルコール依存症者の回復のプロセスにおいて、職業を得て自立することは非常に困難であるにもかかわらず、社会における依存症への理解は乏しく、依存症の既往歴を持つ者の雇用は厳しい。そのため依存症者は支援施設内に留まらざるを得ないのが現状で、社会復帰の道のりは遠のくばかりである。本団体は茨城県鹿嶋市において複合型依存症施設として、設立当初より一定の回復に達した依存症者の職業支援を手探りで行い、社会復帰への道を模索してきた。助成1年目では、より組織的な職業訓練、雇用場所の開拓、雇用環境の地域ネットワーク作りなどを発展させ、とりわけ農作業による就労支援活動に一定の成果を挙げた。助成2年目では、開墾した農場の更なる整備と活用、施設園芸や販売への挑戦など農業関連事業を推進するとともに、職業訓練や就労支援が体系化されたプログラムの開発を目指す。生活保護受給者から納税者へ」の目標を1日でも早く達成できるようプロジェクトの成果に期待したい。



プレゼンテーションスピーチをするヒトシさん。「いつもと違い、緊張した」とは言うものの日頃のミーティング成果を如何なく発揮?

【年末回顧】フォト特集・ファイザープロジェクト 2012



家屋の解体、稲作へのチャレンジ、荒地の開墾、サツマイモ栽培、パソコン研修 etc…、潮騒JTCはこの1年、支援者のご協力により多彩なファイザー事業に取り組みました。



食の安全と安心は農家が下支え

依存症のケンボウです。

昨年11月に潮騒JTCに入寮しました。初めは「え！これがリハビリ施設？」と、イメージしていた施設とのギャップに戸惑いました。勝手に大きな建物をイメージしていたのです。でも、いざ入寮してみると、とてもアットホームな感じを受けました。先輩入寮者たち（今では大切な仲間たちで



す！）が親切に迎え入れてくれたのを、昨日のように思い出します。これが潮騒JTCでの入寮生活の始まりでした。

★1年後には主役の一人でフォーラム参加

施設での生活は初めてだったので正直、「これから先、どうなるのだろう…」との不安がぬぐえないまま、すぐに施設のフォーラムがありました。右も左も分からない状況でしたが、入寮者が一つにまとまって自分たちの回復の姿を懸命にアピールしようとする情熱には、新参者ながらも心が打たれました。

そうして1年後、今度は自分も主役の一人となり、先月のフォーラムに本格的に参加しました。「成長…仲間と共に」をテーマに、通常の公開フォーラムに加えてファイザープロジェクトのフォーラムも兼ねました。私もファイザープロジェクトで農業関係の仕事に、一貫して仲間と共に参加させてもらっていたので、感慨もひとしおでした。

この1年、たくさんの得難い体験をしました。が、農業プロジェクトの水田耕作では田植えからではなく、荒れた土地の草刈りから始まり、ユンボを使っ

ファイザープロジェクトで自然の恵み実感

て天下での草刈り作業などで、とてもきつい場面もありましたが、仲間の手助けや励ましもあり、成果を発表するフォーラムまでたどり着くことができました。

★自然が相手の農業は気候に左右される

私の家は兼業農家だったので多少の農業経験はあります。でも、実際に田んぼに出て、一から作るのは初

めてでした。その意味ではとても貴重な体験でした。ふだん何気なく、ごく当たり前に食べているお米やジャガイモ、サツマイモ、ピーマンといった農作物を自分たちの手で栽培し、育て、収穫する。その汗と涙の結晶を口にしてみて感じたことは、農業は自然が相手なので豊作不作がその年の気候によって大きく左右されるということ。農家が手塩にかけて生産した農作物が人々の口に入るまでは、大変な時間と労力が必要なのだと、農家出身ながら改めて実感しました。

私が社会で働いていた時に食べていたコンビニ弁当やおにぎりのお米は、お金を払えばすぐに手に入るイメージがあります。手軽で便利には違いないのですが、「お金さえあれば、いつでもどこでも食べられる」と錯覚しがちです。でも、地球規模の気候変動や自然災害が起きれば、食糧輸入大国の日本はいとも簡単に「飢え」の危機に陥る可能性があります。それだけに農業者の汗と涙と苦勞を忘れてはいけな

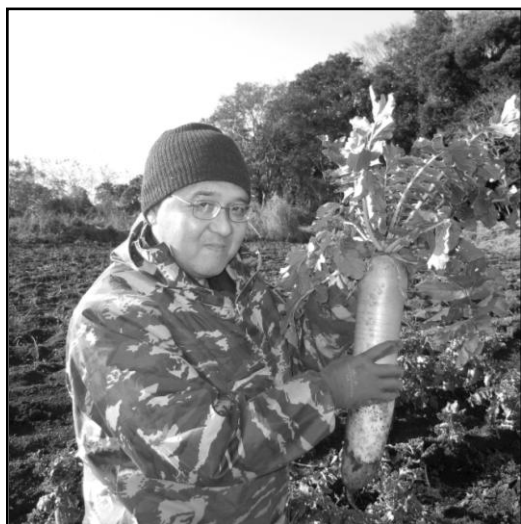
いと気づかされました。私たちの食の安全と安心は農家に支えられている—これがファイザープロジェクトにかかわって実感した、一番の収穫です。自然の偉大な恵みによって命をつないでいるのに、私たちはその偉大さをつい見過ごしてしまいます。それだけに自然への感謝と謙虚な気持ちを忘れてはいけないと思います。今後も潮騒の仲間たちと手を携えて、この緑豊かな大地と共存していきたいと決意を新たにしています。

大根収穫とたくあん作りに挑む

…2012年開墾プロジェクト(猿田地区)の締め括りに…

確か、真夏の暑さが残っていた初秋に大根の種をまいた記憶があります。オブラートシートに付着していた種をそのまま土に入れて、まるで赤ちゃんをあやそうように上から優しく土を掛け、農業隊(潮騒の農業プロジェクト参加メンバー)の仲間5、6人と半日ぐらいでやり抜きました。

全く初めての経験だけに「これで本当に大根ができるんだろうか?」「スーパーマーケットで売られているような立派な大根に育つといいなあ」など願いを込めました。ちょうど成長が遅れ気味のサツマイモがやっと他の畑と同じように育ってきた時期で、サツマイモと一緒に特に何かやるということもなく、たまに見



回っては雑草を取る程度の作業でした。

手間がかからないので、「これで本当にこんなことで大根が

育つのかな?」とちょっぴり不安もよぎりましたが、私たちの心配をよそに、だんだん育つと大根の数が最終的に200本ほどになったのです。小さな種が成長する姿は感動的ですが、初めての土作りや整地作業などで大根作りに適した土ができていないこともあり、3分の1が土から出ていない状態でした。

それでも収穫となると嬉しいもので、「自分たちでつくった野菜」という特別な感情が湧き、とても楽しく仲間と収穫作業ができました。

●農業の奥深さ、歴史や文化に思いを馳せる

そして収穫した大根は、そのままたくあん(沢庵)作りに入りました。まず「大根漬け」という塩を入れて2~3日、置いておく下準備をしました。数日後には本漬け作業に入り、調味料を作り、大根漬けにしたものに合わせ、また2~3日寝かせておく作業を続け



ました。

このように、種まきから大根漬けまで一貫して順調に作業ができたのは、潮騒農業プロジェクト指導者の増古四郎さんのおかげです。ありがとうございました。私にとって親世代に当たる関係者の皆さんからは「昔はどの家でも当たり前のようにやっていたんだよ」という言葉をいただき、改めて先世代の体験の重みと偉大さを思い知りました。

今回、収穫した大根をたくあん漬けするまでやってみて、農業の奥深さと歴史や文化、農家の絆にも思いを馳せることができました。農業プロジェクトは自然が相手だけに理屈抜きに厳しさを実感しますが、皆さんの協力があれば体験のない私でもできるんだという自信にもつながりました。食べるにはもう少し様子を見ないと何とも言えませんが、この貴重な農業体験を来年のファイザープロジェクトにもつなげたいと思います。

(ヒトシ)



鹿嶋まつり&て〜ら祭で焼きそば干食販売 ＝潮騒農場で収穫したサツマイモを有効利用＝



先月号で掲載予定だったのですが、紙面の都合で遅れてしまいました。恒例の鹿嶋まつ

り（会場・県立カシマスタジアム周辺、10月21日のみ出店）と、て〜ら祭（会場・鹿嶋市まちづくり市民センター、11月3、4日）への参加報告です。

鹿嶋まつりでは、露店で焼きそば（300円）とポップコーン（200円）の2種類を販売。以前調理師として働いた経験のある入寮者2人が焼きそば調理を担当しました。用意した300食は開店から約3時間後の午後1時頃には完売。調理に当たり、商品名の「あーちゃん焼きそば」の元になった、入寮者のあーちゃん（61）は「来年はもう少し（販売量を）多くしたい」と感激と来年への意気込みを話してくれました。

て〜ら祭では新たに「さつま汁」を加えて販売しました。これはサツマイモ、魚のつみれ、シイタケ、ダイコンなどが入った汁物で、サツマイモは潮騒農場で

収穫したものを使用しました。やはり調理師として働いた経験のある入寮者のマキさんとあーちゃんの2人が焼きそばを担当しました。

「麺と野菜などの具材を別々の鉄板に分けて炒める。仕上がってから合体させる」というプロの技を駆使した調理の手際の良さを披露しました。さつま汁やキャラメルポップコーンを販売する仲間たちも頑張りを見せ、見る見るうちに売れていきました。

焼きそばは2日間で合計約700食を完売。さつま汁は300杯を販売するなど好調な売れ行きでした。昔屋台をやっていたマキさんは焼きそばの個数について「バブル景気の頃の個数。あの頃は作れば全て売れた」と懐かしそうでした。入寮して日が浅いポップコーン担当のトモさんは「やっぱり楽しい。小さい子が自分のお小遣いで『一つお願いします』と来てくれるとうれしい。喜びを感じます」と話してくれました。

（サッキー）



＝ 12月誕生日の仲間たち＝



前列左から、アベ・トシ・オトウ・ヨシハル、後列左からヨウイチ・ヒトシ・エン・ヒコの皆さん



近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL8

ダルクの連中は人がいいやつばかりだから、送迎しなくちゃならないような人も受け入れちゃう

一確かにNPO法人になれば社会的な信用とか認知度は高まるでしょうけど、理事会を開いたり慣れない書類作りなどの事務負担が増えますよね。

近藤 スタッフの力量にもよるけど、それができるダルクならいいよ。できないところは無理してやる必要はない。NPOとか社会福祉法人とか、国家が管理しやすいような仕組みにさせられてしまうというのは、そうしなければ生き延びられないよ、みたいな圧力が押し寄せているのかな。慌てて個室を何平方メートルに整備したり、建物はコンクリート造り



にしないとだめだとか、警報器がついていないとか、なんだかんだと行政の指導に従って、みんなその基準に合わせようとする。

一そういう意味ではダルクのアイデンティティーが問われているのかもしれないね。ダルク側にも内部

変化がありませんか？ 昔だったら、一定の範疇に収まった人たち。大きな括りで依存症として一つにまとまっていたのが、今はとても多様化している。もともと精神疾患があって、それで薬物を使ってというような人や処方薬依存も増えています。彼らの多くはステップもままならない。どうみてもダルクよりも精神病院の方がふさわしいというような…。

近藤 そういう人をダルクは引き受けるべきではないんだよ。「来る者は拒まず」だけど、ダルクはあくまで依存症のリハビリ施設で回復したら社会に戻るのが基本。自分が今どこにいるのか、自分の居場所を認知できないのは困る。自分がどこにいるのか分からない人に、ダルクにいてもらっては困ってしまう。それはまた別な施設だよ。でも現実にはそうした別な施設、ボーダーの人が行く場所が

ないから、どうしてもダルクに集まる傾向みたいだな。そこんところはきちんと国に対してもの申すべきなんだ。仕方なく全部面倒みているからって、それをいいことに「まあまあ、そう言わずに」とか役人に言われて、なあなあになっちゃって、都合よく使われて、というようなところもあるんじゃないの。

●自分の足でミーティング場に行くのが基本

一潮騒でも、そういう人たちが増えてます。日々スタッフの役割が病院の送迎ばかりになって、肝心な自分たちのケアができにくくなっている…。

近藤 ほかも多くなっていますよ。ダルクの連中は人がいいやつばかりだから、送迎しなくちゃならないような人も受け入れちゃう。本当は病院でもミーティング会場でも自分の足で行くべきで、潮騒のような田舎なら仕方ないけど、たいていは電車やバスに乗って行く。夜遅くなって足がなくなってしまう場合には、帰りは迎えを頼むとかの判断ができる人たち。車がなければ自転車で行ったりしてね。

やっぱり潮騒も責任者のユタカが人がいいんだよ。送り迎えしなくちゃならない人、自分がどこにいるのか分からない認知症みたいな人たち、自力で歩けない人たちも盛んに受け入れている。そりゃ家族にとっては救いかもしれないけど、果たして当事者にとって本当にいいのかな。そう考えると、やっぱり潮騒も都合よく使われているんじゃないか。僕は行政にうまく利用されているような気がする。

でも、それは本来、福祉行政の立ち遅れということか怠慢であって、政治が解決すべき問題なんだ。受け入れるダルクには、そのかわりに生活保護はばっちりつけますから、と誘い水を与える。ダルクも大変だからカネのためなら我慢するか、というようになる。まあ、大なり小なり全国のダルク、みんなそうじゃないの？ でも、東京ダルクは軽いのしか入っていない。それははっきり、線引きしている。ちゃんとソフトボールができてとか、年齢は40歳までだとか、しっかり線引きしているよ。それは公共交通が整っている都市部にあるダルクだから可能だ、という見方もあるけどね。(次号に続く)

全国受刑者の皆さんからの手紙～潮騒通信「どっこい生きてます！」を読んで**■私の背中を押して良い方向に導いて**

私にとって薬物はとても恐ろしいものです。私自身の心が、考え方がおかされていくのが分かっているのに止められませんでした。ですが、今は違います。私は薬物を止める決心はできておりますし、私の弱い心の背中を押して頂き、良い方向へと導いて下さるのでしたら、是非に正しい仲間として私を支えて頂きたくお願い申し上げます。

(東京都 K・U)

■栗原さんに柄受けになってほしい

自分は現在、43歳です。刑務所は今回で6回目です。本当に薬を、覚せい剤を止めて生活をしたいです。ですが、一人では止められなかったのです。だから栗原さんに頼るしかないと思い、手紙を書いています。両親もおりますが、2人とも生活保護を受けており、自分の引受人にはなれません。自分としては1日も早く出所したいです。両親のことも気になりますが、これからの自分のことも気になります。ここにいる間に栗原さんに柄受けになって頂き、手紙のやり取りや今後について考えたいです。

(北海道 H・A)

■職業訓練で資格を得て地元に戻りたい

潮騒通信など各資料を拝見し、覚せい剤による悲惨な現状と絶望的な状態からはい上がり、復帰を目指している人達の努力が自分の中にもひしひしと伝わり、改めて絶対薬物を断ち切り、社会復帰してやるんだという気持ちを強く持ちました。出来ることなら今すぐにでも施設に入寮したいのですが、以前から知識を身につけたいと思っていた要約筆記や手話を勉強しながら、薬物の治療回復や若い世代への啓発活動に専念したいです。職業訓練の段階では可能なら建築環境衛生管理技術者か、ボイラー・冷凍機器設備管理者の資格取得を目指したいと考えています。資格を取得した暁には、実家や親族の経営する会社があった岩手県大船渡市や陸前高田市で仕事を見つけたらと願っています。とにかく施設退寮後には地元に戻り、職業訓練で得た知識をフル活用して頑張ることが今、私の目標になっています。(東京都 H・N)

■もっと世の中で苦しんでいる人の事を知って

先日の特集の特集を観た限り、潮騒入所者の方々は

「反省している。生きたい。自立したい」と話しておりましたが、その言葉は心の叫びとは感じられず、その言動には“努力”というイメージが全く見受けられませんでした。その上、自分の非を社会の責任にしている発言もあり、少々驚きました。

こんな手厳しいことを申し上げるのは本意ではありませんが、入所者の方々には潮騒という終の棲家を見つけた如く嬉々としているように感じられました。浅学非才の私が言うのもなんですが、入所者の方にはもっと世の中で苦しんでいる人の事を知って頂きたいと思います。

人は人並みの努力では人並みにしかなれない、と誰かが言っておりました。入所者の方は自分の意思でクスリをやり、人生も人格までも破綻しているのですから、呑気な生活をしている場合じゃないと思うのです。まずはしっかりと回復に努め、可能な状況になったら仕事に励んでほしいと思います。このご時世ですから、そう簡単にはいかないでしょう。でも、何事も諦めることなく、常に希望を持って努力し、前に進んでください。有意義な生活を願っています。

(北海道 H・M)

■潮騒は前向きで仲間の大事さが感じられた

報道特集を見ました。潮騒が映る前に無料低額宿泊所というのが取り上げられていましたが、あそこにいる人は活気がなく、人生終わっているなあと感じました。それに比べ潮騒は前向きに思え、仲間の大事さが感じられ、タケシ君の必死さがとてもよく伝わりました。彼を支えていく人達の温かみのある関係がとてもいいですね。でも、酒もクスリも全然やめる気のないジイさんがいたことが、とても残念です。周りが一生懸命に立ち直ろうとしているのに、あのような人が邪魔をして他の人の妨げにならないのですか？ やめる気がないのなら潮騒を出て行けばいいのに、思っていました。

それに潮騒通信を読んでいると、仮釈放のために潮騒や栗原さんを利用しているようにしか受け取れないケースを感じます。そういう風に考えてしまう自分は心がずさんでいるのでしょうか？ 文面だけでは人の心は分かり兼ねますが、仮釈放のどうのこうのよりも、本気で薬物依存の回復を考えてほしいものです。偉そうなことを書いていますが、もちろん自分だって変わりたいのです。

(広島県 K・Y)



続・全国受刑者の皆さんからの手紙

■報道特集を拝見し自分を見つめ直した

告知頂いた報道特集を興味津々で拝見することができました。社会で行き場のない人達が共有している生活や、施設の生活では基本となる大事なミーティングの様子などで自分を見つめ直すことができました。改めて社会復帰することの難しさ、後遺症の怖さなども垣間見た思いです。健全で元気そうな栗原さんの面影が印象に残っていました。

(鹿児島県 K・K)

■捕まって刑務所に入れて良かったのかも…

私は過去に相当の酒量を飲んできました。それもアルコール度数 97 のスピータスという酒を毎日欠かさずに飲んでいました。その時には手がしびれていました。さすがに、もうやめようと思ったのですが、どうしてもやめられませんでした。

前回の刑務所から出所後には解体の仕事に就いて真面目にやっていたのですが、そのうちに朝から飲むようになり、1 日じゅう飲む状態になりました。さらに夜になると大麻を吸って酒を飲むようになりました。今思うと、捕まって刑務所に入ることができて(命がつながっている分だけ)良かったのかもしれないと思っています。そのお陰で、こうして栗原さんにも知り合えたのですから。出所後は潮騒で頑張りたいと思います。

(愛知県 S・S)

■ここでの受刑者生活を焦ることなく務めます

11 月行事のて〜ら祭は何か懐かしいです。私も去年の今頃は潮騒ジョブにいたわけで、ソフトボールの交流試合も船橋北病院とやるのですね。私もここで頭を冷やし、回復に向けゆっくり考え、無力を十分に認め、老いて行く生活を寂しく送りたいくないので、施設長からの手紙や潮騒通信の文面をしっかりと読んで、厳しい言葉も真摯に受け止め、今はここでの受刑者生活を焦ることなく務めます。今はあれこれ考えず、無力であることを自覚しつつ、残刑を無事に務め上げる決意です。(愛知県 Y・K)

■社会で生きる実感が持てずにクスリを再使用…

…今回は 3 年 6 カ月の刑でした。12 年ぶりの服役です。この間、曲がりなりにも社会でやってこれたのは、プログラムと施設のお陰です。クリーンがあっても 1 回使え

ば、元の一番悪い状態にすぐ戻ってしまい、捕まってしまう。これも回復に向けての試練ですね。

私の場合、クスリを使わずに社会で生活していても、生きる喜びを実感できず、またクスリを使ってしまう自分がいました。たまに NA に行くと「ああこれでいいのだ」と実感し、また希望を持って次の日から仕事に打ち込めた自分が過去には確かにいました。クスリを使わないでこの先、生きていけるのなら自分はどんな努力も惜しまずにやっていくつもりです。この先、自分の人生をユタカさんに預ける覚悟です。どうか宜しく願います。仮釈が間に合わなくても、笑顔で満期まで務め上げて、潮騒 JTC でお世話になります。安心してまた刑を 1 日 1 日務めてきます。

(北海道 Y・Y)

■身内のない私に覚せい剤離脱の力添えを

初めてお便り致します。私は覚せい剤で逮捕され、3 年の刑を受け、北海道の地で反省の後悔の日々を送りながら、務めております。残刑 1 年 7 カ月ほどですが、覚せい剤からの離脱をしなければと毎日、決意を新たにしております。そんな中でダルクなる所があることを知り、何としても離脱を考えている私としては興味を抱いていたところ、テレビで茨城県の潮騒ジョブトレーニングセンターが取り上げられていました。

それを見ていて、できることなら私もそちらにお世話になって努力してみたいと、こうしてペンを持った次第です。まだ詳しいことは分かりませんが、皆さまの仲間として加えて頂き、覚せい剤からの離脱に力添えをお願いしたく思っております。身内もお金もない私ですが、離脱の意思は強く、社会に戻れたならばそちらにお世話になって本当の意味での更生を図りたいのです。引受人や帰る場所のない私ですので、どうかご指導頂けるように宜しくお願い致します。

(北海道 S・Y)

■面接官から「亡き父母の墓前に良い報告を」と

よい報告があります。先日、委員面接がありました。出所後の順守事項の確認が主な内容でしたが、潮騒について説明すると、えらく納得しておりました。面接官は最後に「そうしたダルクの関連施設で薬物離脱プログラムを受けながら、1 日も早い自立を目指し、亡き父母の墓前に良い報告をしてほしい」と言われた時には、さすがの私も胸が熱くなり、今までにない面接で終わることができました。

(青森県 H・O)



12月句会作品から～

しおさい俳壇

～選者＝桐本 石見先生

冬の鍋好きな女と飲みたいな

(タカ)

冬は鍋の季節で河豚、鮫、紅葉、石狩鍋などいろいろあるが、好きな女性と二人の鍋は格別の味でもある。句としては少し俗だが、これも男の思いで俳諧の哀れを思う。

銀杏の匂ひに道の季を知る

(オノ)

原句を少し変えましたが、これで何所かの公園や神社の道を散歩しながらふと銀杏の匂ひに気づき、秋の深まるを感じる句になります。テレビなどでは大阪の御堂筋の銀杏が報道されて懐かしい。

人肌の恋しい一日秋深む

(ヒトシ)

原句には季語がないので秋を入れましたが、これで秋の一日に寒さの増す中に人肌を恋う、しみじみとした句になります。酒の爛に冬の熱燗がありますが、人肌ほどが味わいも深い思いがします。

寒風やタバコの集み談みじか

(カツミ)

屋外の作業かも。一仕事して休憩するが、タバコや話もそこそこ散らばる、如何にも冬の日の思いの句です。震災の道路復旧で夏も冬も工事をしているが、苦労でもあるし、以前は自分も真冬に外で仕事をしたことを懐かしく思っています。

鹿島灘白波立てば秋思ひ

(チヨ)

この句も季語を入れ少し変えましたが、これで白波の鹿島灘を見ながら、夏の思い出が古里など思う句になります。夏の入出の多い海岸も、秋になると淋しく何か人も恋しくなります。サーフィンの人達が浪に遊ぶ晩冬の景も見えます。

秋深む故郷いつしか遠かりし

(トム)

古来、故里は遠きにありて思うもの、と云われますが、現代もまた転勤や海外派遣などで、昔の参勤交代などの頃と変わらない。人により里の思い出は異なりますが、秋にはまた特別に里を思う。

師走には諭吉も出ゆく財布かな

(フミ)

諭吉は一万円の福沢諭吉ですが、師走には何かと入用で多忙と云うことです。面白い作ですが、「師走には諭吉も多忙財布かな」のほうが良いのでは。

冬近し波のしぶきも鹿島灘

(ヒロ)

鹿島灘は波崎から大洗までの約六十キロを云う、遠浅の海岸。今では鹿島港が出来たので途切れましたが、下津からは広い灘が広がる。冬も近くなり風も強いと、波しぶきも荒く寒さも思う。冬は波の冷たいのは当然なので、鹿島灘として景を大きくしました。

紅葉散り行く古里の山路かな

(ナ)

俳句は十七文字で短いので、出来るだけ同意の語は使わず、他の云いたい言葉表現することでも大事です。これも原句を変えましたが、これで古里の山路の紅葉も散り、冬の近いことを詠める句となります。

潮騒の毎日辛し秋の暮

(セフ)

季語が無いので秋の暮としてみました。秋は木や花も枯れゆく季節で人もまた物思ふ時節です、ダルクの日々も人により辛い思いもあります。率直に切々と告げた句です。

寒くなり鍋の恋しき日暮かな

(ラッキー)

日本は四季のある国で、その四季毎の和食の中で冬の鍋は家族の団欒や恋人との鍋も温かく近親感を増す。秋も深まり冬の到来と共に鍋料理が恋しくなる、実感の句です。多人数なら寄せ鍋、二人ならちり鍋、茨城は鮫鯨鍋が名高い。

赤トンボ霞ヶ浦を飛んでゆく

(サエキ)

赤蜻蛉は秋の季題で、童謡にも「夕焼け小焼けの赤蜻蛉…」があり、懐かしい。霞ヶ浦の何所かで、その赤蜻蛉を見ながら故郷を思っているのかも。浦の青さに飛ぶ赤蜻蛉もまた美しく、淋しさもある句です。

パンジーを植える歩道や海風の

(ユタカ)

パンジーは三色堇のこと。春の季語で蝶が羽を広げた様に紫、茶、黄色など咲かせる。北ヨーロッパ原産で江戸時代に渡来したとのこと。そのパンジーを歩道の花壇に植えると、海風の風が花びらを靡かせる。海の青さも彷彿して綺麗でまた、植えるに実感のある句です。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

白い息この手も感ず冬間近か

(サカ)

秋も深まり冬も近くなると朝夕は寒くなり人の息も犬の息も白くなります、また外へ出ると手や頬の風にも冬の近いを思いますが、日常のことながら実感の句です。秋も深まり冬も近くなると朝夕は寒くなり人の息も犬の息も白くなります、また外へ出ると手や頬の風にも冬の近いを思いますが、日常のことながら実感の句です。

さみしいなたった一人の冬の夜

(トミ)

人間は不思議と云うか、難しいものです。大勢過ぎると一人が良いと云い、孤独だと淋しい。しかし極まるどころ家族で過すのが一番幸せではなからうか。夫々の事情ながら、冬の夜に一人は淋しい、実感の籠る句です。

雪ダルマ頭の帽子は百五円

(コジ)

鹿島ではまだ雪は降らないが、毎年我が家でも孫と雪達磨を作る。これは旅か去年の句かも知れないが、大人になっても楽しいものだ。出来上がりに帽子を被せる、これも以前に買ったものか、安いがまあ、帽子を被った達磨もいいかも。面白い句です。

寒けれど屋上からの富士の見ゆ

(アーちゃん)

富士山は日本を代表する名山で、海外の旅から帰国して富士山が見えると日本に帰った想いになる。ことに冬になると空気が澄むので遠くから見える。この鹿島や牛堀の公園などからも見える。この屋根は何処だろうか、面白い句。

寿司喰えば笑顔の母よ冬の風

(アベ)

原句は少し変えましたが、これで母と寿司を食べる景が明確になります、外は冬の風ながら母に会う機会があり、たまには寿司を食べようと誘う、少し金はあるが母の笑顔で救われる、しみじみと、またほのぼのとする句です。

続・秀逸句コーナー

おめでとう！
今月の特選句

枯葦や風生むかぎり生きてをり

(マキ)

日本は昔に葦原中ツ国とも云はれ、今でも川や湖沼に葦原が茂る。晩秋には枯れるが、風に靡く様は淋しくも美しい。晩冬には枯れ尽くすが、それまでは風を生み続ける。枯葦の景の句ながら人間の生き様にも通う、しみじみした句です。

寝ようかと猫に声かく十三夜

(オトウ)

十三夜は女名月とも云い、少し欠けた月だが、そこに満月とは違うしとやかさと少しの艶冶があります。その月の更けるころに、猫に寝る声をかけるのは夫婦での会話と異なり、俳諧の哀れを籠めた一句です。

眼白きて今朝の楽しみ実南天

(ジツ)

俳句では眼白は夏の季語だが、秋にもいて家の周りに来る、眼の回りに白の輪があるのでこの名がある。原句を少し変え「今朝の」にしたが、南天の実でも食べに来ているのか、それを窓から眺め心がなごむ、哀憐の微笑ましい句です。

柿喰えば今は懐かし田舎道

(コバ)

有名な句に「柿喰えば鐘が鳴るなり法隆寺」がありますが、子供の頃は学校の帰り道などに友の家の柿、我が家の柿を食べながら帰った。今買った柿を食べながら昔の里の道を懐かしむ。しみじみとした句です。

Information

行事予定 (12月初旬～1月初旬)

- 12月9日 秋元病院メッセージ (15日も)
- 14日 ファイザープログラム継続助成団体贈呈式
- 17日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 19日 しおさい映画会プログラム
- 20日 潮騒俳句会 (しおさい俳壇) 12月例会
- 21日 第3回 (最終) ファイザプロジェクト推進委員会
- 23日 潮騒家族会 12月定例会
- 24日 潮騒誕生会&クリスマス会
- 27日 潮騒歳末餅つき大会 (下津本部)
- 28日 プー横町保育園年末餅つきイベント
- 1月2日 2013年潮騒初詣で (鹿島神宮)
- 4日 2013年潮騒新年会 (まちづくり市民センター)



献金を頂いた方 (12月初旬まで)

- ▼梅島クリニック 和田院長様
- ▼長澤 勇吉様 ▼大小森 進様
- ▼岡本 紳次郎様

献金を頂いた方 (12月初旬まで)

- ▼トーマス山本様 ▼上田 靖様
- ▼タイヘイ (株) 様
- ▼ (株) 田口商事様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金を
いただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
全員の方に同封させて頂いております。
どうぞご理解の程をお願いします。

【施設側からのお願い】潮騒JTCでは使わなくな
った中古パソコン、中古の車いす等の献品を求めて
います。施設での回復活動や日々の生活、就労支援
活動などに必要なもので、ご協力をお願いします。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34 号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56 号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

今月号では、全国の受刑者の皆さんからの便りの数を増やしました。皆さんから頂いたお手紙は栗原施設長が必ず目を通して頂いています。ただ、超多忙な日常の中で、返信の手紙を書く時間が取れず、結果的に返事が遅れがちです。矯正施設という世間から隔離された空間において外部とのコミュニケーションがどれほど待ち遠しく、一日千秋の思いであることは十分に理解できます。どうかご了承ください。また、「しおさい文芸」コーナーも「しおさい俳壇」コーナーとしました。できるだけ多くの入寮者に参加してもらい、桐本石見先生のご指導を頂いて毎月開催している定例会の作品と、この中から今月の特選と秀逸作品を選んで頂き、掲載していきます。もちろん受刑者の皆さんからの作品も引き続き積極的に掲載しますので奮ってご応募ください。年配者が多い施設なので、ブームの俳句作りで潮騒の特徴を出したいと考えています。一般読者や家族会の方々の参加也大歓迎です。どうか皆さま、よいお年をお迎え下さい。(市)

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費に含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。